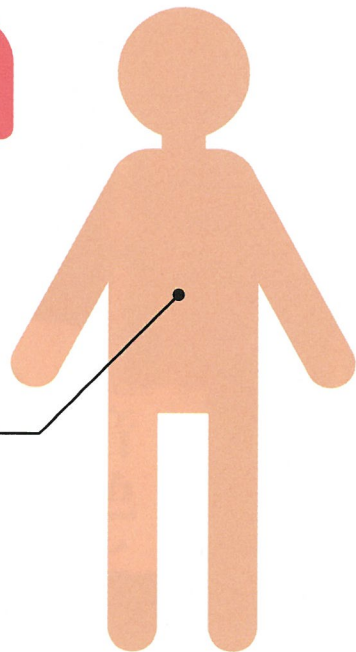


臓器のはなし



今月は コロナ私見

重症度は減少傾向も まだまだ油断できない

**コロナと共存のため
適切な感染対策を**

新型コロナウイルスが感染拡大してから3年目、昨年末からは第6波のオミクロン株が主流になっています。このオミクロン株は感染力が強く、特に高齢者施設の多くで罹患者が激増しました。私が訪問診療した施設でもクラスターが発生。感染し

た認知症のお年寄りが施設内を歩き回ってしまうことも、集団感染が起きた原因と考えられました。

ただ現場の医療従事者としての肌感覚なのですが、重症化した人は少なかったように思います。第1波〜第3波の頃は、比較的元気なお年寄りでも容態が急変して亡くなるケースが頻繁に起こり驚かされました。当時、高齢の陽性者致死率は非常に高かったそうです。

これに対して第6波の高齢感染者の死因は、コロナ特有の肺炎や血栓症ではなく、持病などの場合が多いといわれています。若い人の陽性者で命を落とす人も少数とか。それらを踏まえると、初期に比べて、深刻度は下降傾向といえるかもしれません。

一時、騒がれた鳥インフルエンザやSARS(重症急性呼吸器症候群)が、今ではすっかり落ち着きました。どちらもコロナウイルスの一種ですから、新型コロナウイルス感染症も、大局的に見れば終息に向かうと予想できます。ただ、それがいつになるかは分かりません。ウイルスが突然変異する可能性もあります。マスクをつけることで、感染した

方が咳やくしゃみで周囲をウイルスで汚染することを減らし、感染していない方も咳やくしゃみを直接浴びて感染するリスクを減らすと考えられます。熱中症の可能性等も考慮しながら、引き続き、マスクの着用をご検討ください。

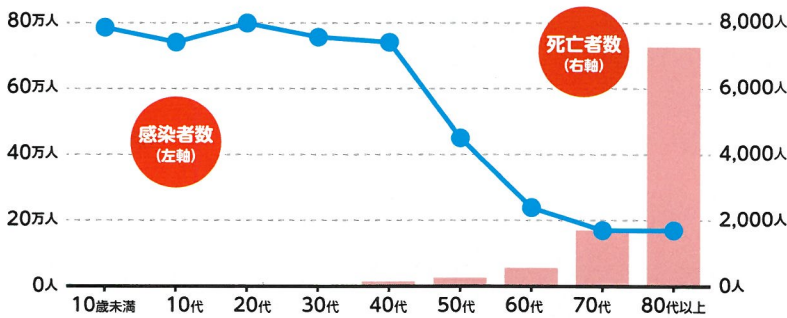
**正確を期す上で
体温は、何度か測る**

マスク同様、ウィズコロナ生活の必需品が体温計。しかし、状況によって注意が必要です。たとえば暑い時でも脇の下が冷えていたら、低い体温が計測され、逆に熱がこもっていると高い数値が出てしまいます。

電子体温計も、温度の上がり方を分析・演算することで予測数値(なので短時間計測が可能。実際の体温と同じではないかもしれません)。

電子体温計で、熱っぽいのに意外と低い数値が出た場合は、再計測を。施設の入口に置いてある非接触型の体温計も同様です。一部の表面体温なので、誤差が出るリスクも。基準とすべきは、自分の体調診断。違和感があれば、何度か測り直してください。

**第6波では40代以下で
感染が広がったが、
死亡は80代以上に集中している
(2022年1月〜4月)**



出所：厚生労働省など

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。